

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年3月30日

【評価実施概要】

事業所番号	0874300841
法人名	アサヒケアサービス株式会社
事業所名	グループホーム みやびの里
所在地 (電話番号)	茨城県古河市駒羽根1420-1 (電話)0280-91-1581

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県取手市井野台4-9-3 D101		
訪問調査日	平成20年3月16日	評価確定日	平成20年7月15日

【情報提供票より】(20年 2月 10日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 16年 9月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 13 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 13 人	

(2)建物概要

建物形態	<input checked="" type="checkbox"/> 併設/ <input type="checkbox"/> 単独	<input type="checkbox"/> 新築/ <input checked="" type="checkbox"/> 改築
建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	2 階建ての	1 階 ~ 2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円	その他の経費(月額)	30,000 円	
敷金	<input checked="" type="checkbox"/> 有(140,000 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="checkbox"/> 有(360,000 円)	有りの場合 償却の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 約 1,300 円			

(4)利用者の概要(2月17日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	3 名	要介護2	3 名		
要介護3	5 名	要介護4	6 名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 80 歳	最低	56 歳	最高	90 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	仁寿会 総和中央病院
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

広大な敷地に2階建ての建物が建ち全ての部屋から中庭の景色が見渡せる作りになっている。また、1階部分は部屋から中庭へ出入りできる構造になっている。その中庭には野菜の畑も作られ利用者が自然と触れ合える場所となっている。更に中庭には庵形式の建物もあり、地域の方も利用できるような作りになっており地域の方の交流の場となるような工夫がされている。また、四季折々の景観が楽しめるような樹木の植栽が施され利用者が季節を楽しめる工夫がうかがえる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>掲げられたホームの理念は、開設当初からのものであり日々の介護に生かせるような具体的理念を構築されていないようであった。また、当該ホームの前年度よりの課題は、基本的にハードの問題が大きく影響しており「鍵をかけない」介護の実現が出来ない状況が続いている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価の意義を職員全体が共有できていない状況であった。今後は運営者・管理者・職員全体で外部評価の意義を理解し共有できる体制が必要と思われる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、現在の時点で機能している様子は見られず、責任者会議のみであった。今後は、地域の自治会・老人会・市町村担当職員等と相談されその方たちと定期的に会議を開催されたい。また、その会議を生かし入居されている方たちが、ホーム内に閉じこもることなく地域住民の1人として生活できるような環境づくりを期待したい。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>現在家族会は作られている。今後は、その仕組みを充分生かし家族の方たちが気楽に話し合える組織としていただきたい。また、ご家族に対する定期的な報告は年に4回発行されるホーム便りのみになっており、ご家族が訪問された時のみの報告であった。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域との交流は、施設長が自治会に加入するなど積極的に取り組まれており、ご近所の方も草取りに参加して下さる。また、ホームに入居されている方たちも地域のイベントに招待されるなど今後の活動が期待されることである。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初から職員と共に作成された理念が共有のホール等に掲示されている。		今後は地域住民との交流を視野に入れた運営理念の追加を検討されたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	現在作成されているグループホームの理念は、職員間では共有され、介護の現場においては共有できるよう努力されている姿が伺えた。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	施設長が自治会・地域の老人会等に参加し地域の方と馴染みの関係を作っている。その中で地域の方々が敷地内の草取り等に参加して下さったりしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価後の評価表は、職員会議等で開示されているが評価表作成にあたっては、管理者が作成している。	○	外部評価を行う意味を運営者・管理者・職員等が共有できるよう自己評価を職員全員で行うなど試みていただき外部評価の真の意味を共有していただきたい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は施設内の責任者で会議を行っている。	○	今後は、地域の自治会の方・市町村職員等をまじえ入居されている方々の生活の資質が向上するような会議にしていただきたい。

茨城県 グループホームみやびの里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホーム運営にあたり、疑問に思ったことわからないこと等些細な事でも市町村担当者と相談し資質の向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	ホーム便りなどを作成し定期的に家族に送るなど行っている。		今後は、更に利用者個々の生活状態がわかるような定期的な報告の方法を検証されご家族が安心できる仕組みを構築していただける事を期待する。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を結成し、夏祭り等の手伝いなどをして貰うなどホームに足を運んでいただく仕組みをつくっている。		今後は、家族会等の仕組みを生かされ定期的な集まりを企画され更には、それらの仕組みの中で利用者の家族の本当の声がホームに生かされる仕組みを構築していただきたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動に関しては、運営者と相談しながら慎重に行われ馴染みの関係の職員が急にかわり、利用者がダメージを受けないような仕組みを作っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修会等に自主的に参加する。また、法人のすすめで研修会に参加しその後職員会等で研修内容を伝達するなどの仕組みを作り職員の資質の向上に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は殆ど行われていない。	○	日々培われた地域の方との交流を生かされ、地域の同業者等と交流、また地域の協会への参加等職員相互が交流できる機会を構築されサービスの質の向上に向け取り組んでいただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居の可能性がある利用者は、入居前に自宅に訪問するなど顔馴染みの関係を構築しながら家族・利用者が安心して入居できるよう支援されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常的に掃除・洗濯・野菜作りなど日常生活を共に過ごす事により職員・利用者が共に支えあう関係性を構築している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の会話の中から、職員が利用者の過去の生活を知る努力をしできる限り利用者が望む暮らしが出来るようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、職員会議等で検証され利用者の意向が反映されるような介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、職員会議で検証され作成されてから家族の同意を得ている。	○	日々の生活の中で介護計画が活かされた介護が実施され、更にそれらが反映された介護計画を作成していただきたい。また、作成にあたっては家族・利用者の思いが反映された介護計画の作成と活用を期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者が病気になるなど、緊急時には家族の同意を得て併設施設の車両を活用し、通院など支援されている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームには2週間に一回提携医療機関の医師が訪問する仕組みが出来ている。また、かかりつけの医師に受診する時には家族に支援を得て行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者が急変した時は、併設の医療機関に搬送するなど行っている。現在は終末期の看取りについての方針については明確にされていないが、研修等に参加している。	○	利用者の生活を支えると共に、家庭として機能である人生の終末期のあり方についてホームの方針を明確にされ、利用者・家族が安心して人生の終末期を迎える事ができる生活を検証していただきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の個々の人生を尊重し、日々の生活の中でプライバシー損ねないような対応をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活に日課表はなく、利用者のその日の体調・希望により散歩・洗濯など日常生活を送っている。台所仕事を好む方には普通にお手伝いしていただいている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、月～金は併設の施設で作成された給食を食べているがその時も配膳作業と一緒にいる。日曜日は職員と一緒に食事の作成をするなど、ホームとしてできるだけの事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の時間は、午後のおおよそ決まった時間になってしまっているが、利用者のタイミングに合わせるなど行いながら、入浴を楽しめるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	買い物に行った時には自分でお金を払っていただく、食事の後片付けを手伝っていただくなど出来る事を出来るように支援されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日中天气が良いときには近所への散歩・買い物など機会を見て出掛けられるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ハードの構造上利用者の安全を守るため常時鍵がかけている場所がある。	○	利用者のあるべき姿を職員が理解する。ハード面でも工夫され、利用者にとって安全を確保しながら行える自由な空間作りを運営者・管理者・職員が一体となって取り組んでいただきたい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	現在は年1回今年度は年2回の予定で地域の消防署と連携し避難訓練を行っている。また、それらの避難訓練には地域の方も参加していただいている。		

茨城県 グループホームみやびの里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設の通所介護施設の栄養士がカロリー計算してくれた食事が提供されている。また、日々の水分量も毎日記録され介護に生かされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は食堂兼ホールとなっており、そこでの調度品等などに工夫がみられる。	○	エレベーターホール周辺、廊下の一部分・中庭等を上手に工夫され、利用者が気楽に仲良く話し合える様な季節感豊かなのんびりできる居場所作りを期待したい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室の調度品は、家族に働きかけ持参していただけるようにしている。		